

4月26日(月)

## 薄 い 信 仰

聖書朗読 マタイ 17:14~20

するとすぐに、その子の父は叫んで言った。「信じます。不信仰な私をお助け下さい。」  
マルコ 9:24

本日の聖書箇所ではイエスは、弟子たちに「信仰が薄い」(20節)と仰いました。このような箇所を読むと、残念な思いがします。しかしイエスは、そんな弟子たちをも見捨てることはなさいませんでした。また「弟子として不十分だ!」と責めることもなさいませんでした。(自分も弟子たちのように弱いので)何かホッとします。たとえ信仰が薄くても、神様と共に歩む機会が与えられているのです。信仰が薄い私たちでも、イエスは受け止めて下さり、霊的に成長させて下さるのです。

私はよく「自身の信仰がもっと強かったらよいのに」と思います。しかしイエスは、弟子たちの信仰が「薄い」と指摘しつつも、そんな彼らを受け入れ続けて下さっています。そして、彼らが少しでも(「からし種ほどの信仰」でも)良いから、信仰を持つことが出来るよう、弟子たちを励ますのです(20節)。私たちの信仰が「からし種ほどの信仰」であったとしても、私たちが信じるなら、神様は大いなる御業をなして下さるからです。そして神様が働いて下さるならば、「あなたがたにできないことは何もありません」と仰るのです。

私たちの信仰は、小さな信仰でしかないかもしれませんが。信仰が小さくとも(私たちがいかに不完全であろうとも)、私たちをお用いになって働いて下さる神様は、大いなる御業をなして下さるお方です。ですから、私たちの信仰が小さなものであったとしても、神様に何度でも立ち返りながら、私たちの信仰を(神様によって)より豊かなものにして頂きましょう。神様が働いて下さるなら、山さえ動くのです。ありのままの自分を受け止め、霊的に育てて下さる神様に、感謝ですね。

讃美歌 270

祈り 天におられるお父様、信仰が弱る時があることをお赦し下さい。どうぞ、あなたの御力をもって、お導き下さい。  
イエス様の御名を通して祈り致します。アーメン。

ジョッシュ・ボイド  
インディアナ州ラファイエット

## 今日の方

2021年4月26日~5月2日

翻訳 伊藤若菜

編集 相川忠義

この冊子の聖句は、新改訳聖書第三版を使用しています。

御茶の水キリストの教会

4月27日(火)

## 神の子ども

聖書朗読 マタイ 18:1~5

しかし、この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとなる特権をお与えになった。  
ヨハネ 1:12

私が子どもだった時、早く大人になりたいと思っていました。大人は子どもよりも自由があって、制限されることも少ないと思っていたからです。しかしながら実際大人になってみると、自由や制限されることがないと言うことはそれなりの責任を伴うことだと気がきました。大人になるとは、想像していたほど楽しいことではありませんでした。

「まことに、あなたがたに言います。子どものように神の国を受け入れる者でなければ、決してそこにはいることはできません」(マルコ 10:15)。イエス様が仰ったこの言葉は、どのような意味でしょうか？(子どもたちは十分な知識を持っていないという意味で)愚かになって、善悪を無視した生活をするのでは、勿論ありません。では、子どものようにとは、どのような意味でしょうか？子どもは様々な面で親に頼らなければなりません。物質的な面はもちろん、精神面でも親に頼ります。つまり、子どもは親を信頼し、完全に全てをゆだねているのです。

大人としての責任を果たしていくには、知恵、信頼、慰め、愛が必要です。真の知恵、信頼、慰め、愛は、私たちが自分自身をイエス様にゆだねていくときに、イエス様から与えられるものです。私たちが自分自身をイエス様にゆだねていくこと——これこそが、(イエス様が言われた)子供のようになり、子どものように神の国を受け入れることなのです。

讃美歌 333

祈り 神様、自己を中心にする思いを捨てて、日々御心に少しでも従えるようお導き下さい。

イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

キャロライン・イエーツ  
ノースカロライナ州ローリー

4月28日(水)

## ロバにお乗りになる主

聖書朗読 マタイ 21:1~9

「シオンの娘に伝えなさい。『見よ。あなたの王があなたのところに来られる。柔和で、ろばの背に乗って、それも、荷物を運ぶろばの子に乗って。』」

マタイ 21:5

私が子供時代を過ごした地域は、まるで西部劇に出てくるような所で、牧場がありカウボーイたちが実際に居る田舎の地域でした。祖父母は皆、テキサス州サンサバという町に住んでいて、夏になると、私の親戚一同がそこ集まり、夏のひと時を過ごしたものです。そして、私たち皆で、ロデオを見に行くというのが、恒例行事でした。(ロデオとは、牛や馬などを捕まえる技術を競うスポーツです。)

ロデオは、壮大な入場シーンから始まります。まず、旗を持ったきれいなカウガールに率いられて、たくさんの選手たちが列になってしかも曲線を描きながら入場します。選手たちは、自前の、もしくは借りることができる最高の馬に乗って、悠然と入場します。この光景は、本当に見事です。しかし、入場シーンの最後の方は、少し雰囲気違います。最後の方は、ロデオクラウン(ロデオの競技中に、競技の様々なサポートをする人)がロバに乗って入場します。ロデオクラウンの入場シーンは、ユーモラスで見ていて楽しいです。しかし、もし「自分が入場する立場」だったら、悠然と馬に乗って入場する選手として入場したいと、誰もが思うことでしょう。

ロデオを見ることが毎年の恒例行事のような環境で育った私にとって、本日の聖書朗読箇所は衝撃的でした。王なるお方が、ロバに乗るなんて！普通なら、想像さえしないようなことではないでしょうか。そして、王なる主イエスは、次のように言われるのです。「このように、あとの者が先になり、先の者があとになるものです」(マタイ 20:16)。主が教えておられる謙虚な姿勢に、私たちが学びたいものです。

讃美歌 121

祈り 天におられるお父様、地上的な価値観に惑わされてしまう時があります。お従いすべきあなたにしっかりと目を向けられるようお導き下さい。

イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

クリス・フリッツェル  
テキサス州グランブリー

4月29日(木)

## 神 様 中 心 の 生 活

聖書朗読 マタイ 22:34~40

そこで、イエスは彼に言われた。「『心を尽くし、思いを尽くし、知力を尽くして、あなたの神である主を愛せよ。』これがたいせつな第一の戒めです。

マタイ 22:37~38

「神を心から愛すること」——これは、(究極的には)「戒めや律法を守る」という義務感から生じることではないと思います。むしろ、私たちが「生活の中心は神様」としていく時に、私たちは「神様を愛する者」へと徐々に変えられていくのではないのでしょうか。そして、私たちがそのように変えられていく時、「神様を中心とした生活」は、私たちにとっての喜びにもなるのです。

アーチェリーの大会を見たことがありますか? 選手たちは、雑念を捨て、的の真ん中に矢を射ることだけに集中します。

イエス様は第一の戒めとして、心、思い、知力を尽くして神様を愛することを挙げておられます。神様を中心にする生き方とは、「自己中心的な生き方」ではありませんし、「他者との関係を断つ生き方」でもありません。そうではなく、周りの人々に目を配り、困っている方々や必要なものが十分に満たされていない方々に、心を配る生き方です。私たちが「神様を中心にする」時、私たちには、他者を配慮する優しさが与えられます。ちょうど「善きサマリヤ人の譬え」でサマリヤ人が旅人を気遣ったように、です。ですから、神様を中心にする生き方には、「私たちが他者のために何かをして差し上げる」という積極的な面が伴うと言えるでしょう。さらに、神様を中心にする生き方は、自分自身に対して自信を持つことにも繋がると言えましょう。主は、「自分自身を愛するように、神を愛せよ」と言われています。つまり、私たちは皆、愛する価値のある存在であり、従って自分自身を無価値または無意味だと思ふ必要はないのです。何よりも、神様は私たち一人一人のために、御子イエス様を犠牲にして下さるほど、神様は私たちを愛して下さっています。そのことを思い起こしましょう。神様からの愛を思い起こすときにこそ、私たちは神様中心の生活へと導かれ、そして他者をも愛する生き方へと導かれるのです。

讃美歌 321

祈り 親愛なる神様、イエス様を私たちに与えて下さったことに感謝します。心、思い、知力を尽くしてあなたを愛します。

イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

ダニー・メイズ  
テキサス州アマリロ

4月30日(金)

## 仕 える 者

聖書朗読 マタイ 23:1~15

あなたがたの間では、そうではありません。あなたがたの間で偉くなりたいと思う者は、みなに仕える者になりなさい、あなたがたの間で人の先に立ちたいと思う者は、あなたがたのしもべになりなさい。 マタイ 20:26~27

イエス様の教えの一つは、「動機が重要である」ということです。例えば「自分がお返しのギフトを貰える見込みがあるから、それを見込んでギフトをあげる」とか、「賞賛されたいがために貧しい人を助ける」といったことは、行い自体は正しいのですが、理由(動機)が不適切と言えましょう。マタイ23章でイエス様は、この教えを特に指導者たちに向けて示されました。イエス様は、指導者となる人々は謙虚な仕える者でなければならない、と言われました。それは「リーダーが単に低姿勢な態度をとるべきである」という意味ではなく、「誰かの力になって差し上げたい」という思いから、リーダーシップは発揮されるべきだという意味です。ですから、「指導者となって、他者から注目されるためにはどうしたらよいか」と考えることは、イエス様の教えとは異なります。言い換えれば、「リーダーになりたい」と願うより「仕える者になりたい」と願うべきなのです。仕える者から始めて、結果的にリーダーのポジションに就いたとしたら、それは「仕える者として」最大限の働きをするために与えられたポジションだと考えるべきでしょう。子供たちを愛する学校の先生たち、控えめでおとなしい子供にも配慮して目を配る長老たち、子供たちに聖書物語を読んでいる母親たちを想像してみてください。彼らは、「仕える指導者」の一例かも知れません。「仕える指導者」は、人の上に立つことよりも、まず神の御心を行いたいと望むのです。

讃美歌 513

祈り 神様、良き「仕える者」となれるようお導き下さい。プライドや自己中心的な考えを捨てられますように。家族、友人や社会的弱者に気を配り、助けが必要な人に気を配り、仕えることができますように。

イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

スタフォード・ノース

5月1日(土)

## 苦しむことを恐れる

聖書朗読 マタイ 26:57~67

そこで、私たちは確信に満ちてこう言います。「主は私の助け手です。私はおそれません。人間が、私に対して何ができません。」  
ヘブル 13:6

主イエスが捕らえられた夜は、弟子たちにとって最も恐ろしい夜となったのではないのでしょうか。イエス様は裏切られ、大祭司の前に連れて来られました。祭司長たちは偽証でも構わないので、イエスを死刑にするための理由を探していました。弟子たちは、主を見捨てて逃げて行きました。ペテロは、離れたところから成り行きを窺っていました。

ペテロは中庭へ入り、そこで座りました。一方、イエス様の前には、二人の者が進み出て、次のように言いました。「この人は、『わたしは神の神殿を壊して、それを三日で建て直すことができる』と言いました」(61節)。それに対し、イエス様は、ご自分の弁護のために答えるように求められましたが、何もお答えにはなりませんでした。

ペテロは、(近くにいたので) イエス様を擁護するべく(何もお答えにならないイエス様に代わって) 答えることも出来たかもしれませんが、実際には、怯えながら、ただじっと様子を窺っているだけでした。

「恐れ」は、私たちを無力にさせます。今日に生きる私たちも、何らかの「恐れ」のために、主に喜ばれる生き方が出来ずにいるかもしれません。それは、「友人たちに嫌われてしまうのではないか」とか「馬鹿にされるのではないか」といった恐れのためかも知れません。

後に(復活の主に出会って変えられた) ペテロは、ペテロの手紙第一において、「キリスト者が出遭う試練」を「キリストの味わった苦しみ」と重ねて述べています。キリスト者が試練と出会う時、キリスト者は孤独ではなくは、イエス様も共に苦しんで下さっているのです。そして、その試練の先には、喜びという希望が私たちを待っているのです。だからこそ、私たちは試練に出会っても、希望を持ち続け、主に従っていくことが出来るのです。

讃美歌 298

祈り 神様、時にあなた様から離れてしまいそうになる時がありますが、お赦し下さい。日々あなたに近づけるよう、お導き下さい。  
イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

ゲイネル・トーマス  
ニューメキシコ州ポルタレス

5月2日(日)

## 石が物語ること

聖書朗読 マタイ 28:1~10

イエスは答えて言われた。「わたしは、あなたがたに言います。もし子の人たちが黙れば、石が叫びます。」  
ルカ 19:40

何年も前ですが、大学に工学部の新生として入学した際、私は(クラブへの)入会儀式に参加しました。参加者は数百人もおり、各自重さ5キロ余りの岩を山の中腹まで運ぶよう言われました。その山の中腹には、毎年同じように運び来られた岩が積みまれているのですが、それはただ積みまれているのではなく、あるアルファベットの文字の形になるよう積みまれているのでした。そのアルファベットとは、大学の名前の頭文字でした。積み上げられた岩が形作った文字は、100万人ほどが住む麓からでもはっきりと見えました。当時、私は思ったものです。「もし岩が話することが出来たなら、10年以上続いているこの入会儀式で、これまで皆がどんなふうに岩を運んできたのか、語ってくれるのではないか」と。

上掲の聖書箇所、「岩が叫ぶ」とあります。想像してみましょう。ヨルダン川の河床の石が私たちに何か語り掛けるとしたら、どんなことを語り掛けてくれるのでしょうか。エルサレムの破壊された神殿に使われていた石は、何を語るのでしょうか? 石たちは皆、(ヨルダン川渡河や神殿建設の際に現わされた) 神様の御力や恵みについて語るのではないのでしょうか。そして何よりも、神の一人子イエス・キリストが遣わされたことについて語ってくれるのではないかと思います。

恐らく「歴史上最も大切な石」とも言える石は、イエス様の墓の扉の石ではないでしょうか。その石は、私たちに何を語るのでしょうか。恐らく、天の使いたちも加わって次のように叫ぶでしょう。「(主は)よみがえられたのです。さあ、急いで行って皆に伝えなさい!」と。私たちが通ってきた(人生という)道の道端にも、様々な石があったことでしょう。それらの石は、私たちそれぞれの(人生という)道において、神様が私たちにどんな良いことをして下さったのかを目撃しており、それを語ってくれるのではないのでしょうか。

讃美歌 534

祈り 神様、私たちが岩のそばを通り過ぎるとき、あなたがこれまで私たちにどんな良いことをして下さったのか、思い起こすことが出来ますようお導き下さい。  
イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

ポール・トーマス  
カリフォルニア州ユカイパ